

9月23日ゼミは開催します**藤原不比等の足跡**

—古代国家のグランドデザインを描いた人物の
軌跡—

9月23日ゼミ紹介文：藤田一郎会員記

藤原不比等といえ、かつては娘を天皇家に嫁がせて皇室との血縁関係を築くことによって、権力中枢へ近づいていった人物としてのイメージしかもっていませんでした。しかし、今から3年前に当会のゼミで「律令とローマ法」というテーマで話した際に、唐の律令制を手本にして日本最初の本格的な律令制である「大宝律令（701年）」が制定された時に、中心的な役割を果たしたのが不比等であったことを知りました。

更に最近では、日本の天皇制が世界の標準から見ると、いかに特異性が強いかということを考える機会が多くなりました。現在の天皇制にも通じる古代の律令制を土台とした天皇制国家の確立にも、不比等は大きく関与していると考えています。

われわれが当たり前と思っていることが、他の国から見ると必ずしも当たり前ではないということはよくありますが、その代表的なものの一つが、日本の天皇制です。英国をはじめとして、現在も王室を維持している国は多数ありますが、日本の天皇制の特色は、天皇の権威を高めるために、意図的に天皇家の先祖を神（天照大神）としたことです。このことによって天皇家は神の子孫（現人神）ということになります

が、世界中で神の子孫が人間として生きているという伝承をもつ国は、私の知る限り日本以外にはありません。ユダヤ教やイスラム教など唯一神を信じる一神教の国では勿論のこと、キリスト教を信じる国でも、神の子として唯一認められているのは、キリストです。古代から専制主義国家体制を敷く中国でも、君主（専制主義者である皇帝）は天上の神から地上の統治を任されているという建て前ですから、神の子孫がこの地上に存在するという考え方は全くありません。したがって、天孫降臨（天照大神の孫である瓊瓊杵尊^{ニギノミコト}がこの地上に降り立った）・万世一系の伝承をもつ王室を有する国は、日本以外にはありません。

天上界の国・高天原^{タカマガハラ}から瓊瓊杵尊がこの地上を支配するために、日向の高千穂の峰に降り立ったという天孫降臨神話は、『日本書紀』の神代の巻に記載されています。日本書紀の編纂者は『続日本紀』によると舎人親王とされていますが、実際には多くの方が編纂にかかわったと考えられ、なかでも最有力者が不比等であると推測する学者も多数います。私自身も、少なくとも天孫降臨神話には不比等が関与していると思いますので、不比等は「大宝律令」に続き『日本書紀』の編纂にもかかわっていたということになります。

また、ゼミでは詳述しますが、不比等は710年の平城京遷都にも積極的にかかわっています。したがって不比等は、701年の「大宝律令」制定、710年の平城京遷都、720年の『日本書紀』編纂と、8世紀初頭の記念すべき三つのモニュメントにおいて、全て主導的な役割を果たしています。これらのことから、不比等は律令制を土台とした天皇制という日本の古

代国家のグランドデザインを描いた人物と考えられます。また、天孫降臨・万世一系という日本固有の天皇制国家の伝承を通じて、現代人の精神構造にも影響を与えています。

ゼミでは、不比等の足跡をたどるとともに、何故不比等がこれ程までに大きな影響力をもつに至ったのかを、乏しい資料の中で推測をまじえながら、お話ししたいと考えています。以上。

ゼミ会場と時間 13:15～16:50

- 1、全水道会館（水道橋駅）・中会議室（5階）
- 2、JR又は都営三田線水道橋駅下車徒歩2分
都営三田線水道橋駅はエレベータ使用可。

総本宮:久留米水天宮にまつわる話あれこれ

五・江戸蛸殻町：水天宮と流行神

— 松石 賢治会員記 —

1. はじめに

久留米水天宮は久留米藩有馬家と平家との所縁ある神社であることを述べてきたが、関東地区では日本橋蛸殻町の水天宮がつとに有名である。

現在の宮司は有馬頼^{よりな}氏で、摂津有馬家17代の当主である。神紋は久留米水天宮の玉椿紋と有間神社の三巴紋との合わさった紋である。これは「有間神社」の祭神である「天御中主大神」のご神徳を代々忘れぬようとの言い伝えからきたものである。



【江戸水天宮と神紋】

ここでは、日本橋蛸殻町の水天宮（江戸水天宮）について述べてみたい。

2. 久留米有馬藩と参勤交代

①江戸水天宮の始まりと変遷

江戸水天宮は文政元年（1818年）、久留米藩主9代目有馬頼徳公が自屋敷で祀っていた水天宮の祠を、三田赤羽の江戸上屋敷内に分霊を勧請したのが始まりである。

明治4年（1871年）、三田赤羽の上屋敷が

新政府に接收され移転することになり、一時赤坂に移り還座したが、明治5年（1872年）には現在の中屋敷があった日本橋蛸殻町へ移った。

②江戸屋敷への分霊

なぜ江戸屋敷内に分霊することになったかは、寛永12年（1635年）3代将軍徳川家光公により軍役奉仕を目的に『武家諸法度』として<参勤交代>が制度化されたことによる。その条文を見てみると、

【武家諸法度 寛永令条文】

一、大名・小名在江戸交替相定ムル所ナリ。毎歳夏四月中、参観致スベシ。従者ノ員数近来甚ダ多シ、且ハ国郡ノ費、且ハ人民ノ勞ナリ。向後ソノ相応ヲ以テコレヲ減少スベシ。但シ上洛ノ節ハ、教令ニ任セ、交代ハ分限ニ随フベキ事。

参勤交代とは・・・【参勤】とは自分の領地から江戸へ赴く旅で一定期間主君のもとに出仕し、【交代】は任期が満了すると暇を与えられて国元の領地へ旅して帰り、政務を執ることを意味する。

元々は将軍に対する大名の服属儀礼として始まったものであるが、徳川幕府体制になる政治的統制の面が制度化された。その内容は、諸大名が交代で在府して大名課役（門番・火蕃・作事など）を勤め、幕藩体制を維持することであった。また正室と世継ぎは江戸に常住しなければならないという人質的意味合いもあったと考えられる。



【久留米藩士の宴会】

③久留米有馬藩の参勤交代

久留米有馬藩の参勤交代は、城を出て通町十丁目から北に曲がり宮地の渡しで筑後川を越え、宮の陣町の古賀茶屋で坊津街道（薩摩街道）に合流して山家宿（筑紫野市）を起点に山陽道・東海道を陸路で江戸へ向かっていた・・・陸路は6代藩主有馬則維公より行われた。

安政3年（1856年）の藩士石橋銈太郎による『道中日記』によれば、その道中の様子が覗われる。

●人数…約450名
家老/武士/足軽

●日数…1か月半
37～40日

●出発月…2月半ばから4月に到着 帰りも
2・3月頃から4月末頃

出発月や人数も藩ごとに規定されていた。

※時代により、人数や出発月は変化している

3. 江戸の流行神

①宗教市場としての江戸

江戸時代、各地の大家は参勤交代を課され、本国と江戸の双方で暮らした。そのため各藩は江戸にも屋敷を構え、多くの人々が各地から集まり、江戸で暮らすようになって都市社会化されていったが、それに伴い全国各地の神仏も江戸に集まることになった。

そこに無数の神仏が参拝客を集める<流行神>現象がおきたのである。

②流行神とは

一時的に信仰を集める神仏に対する名称である。宮田登氏の『江戸のはやり神』によると、突発的に出現し熱狂的に信仰されるが、急速に衰退・忘れられる神仏で、民間信仰にしばしば見られる。この神仏の共通点は、雑多な神仏であること、信仰が流動的であること、霊験が個別的・機能的であること、信仰圏が限定的である。この流行現象は洪水・旱魃・大火・地震・飢饉・疱瘡/麻疹の流行といった社会不安や社会変動を背景とする場合が多いと述べている。お地蔵様、お稲荷さん、七福神、お札参り、ええじゃないか、霊験・噂話がいつしか熱狂的な信仰の対象となったこれらの神は、<流行神>として時代を反映する小さな神々となった。

主な流行現象を2つあげると、

●<お陰参り>がある。伊勢神宮への集団参詣で<お陰詣で>ともいう。あるいは<伊勢参り>ともいう。数百万人規模の60年周期に3回起きた。

●また幕末には<ええじゃないか>の現象も流行った。「天からお札が降ってくる。これは慶事の前触れだ」という話が広まり、民衆が仮装するなどして囃子言葉の<ええじゃないか>等連呼し、集団で練り歩きながら熱狂的に踊った。



久留米藩の参勤交代

③江戸水天宮の御神徳（ご利益）

江戸水天宮の分霊は藩邸内に屋敷神として祀られ、一般人の参拝は難しかったが、水難除け霊験ありの「水難除けのお守札」が発行されていた。ところが「安産のお守札」が出されてから<安産の霊験あらたか>のことが江戸庶民の評判を呼び、屋敷の塀越しにお賽銭が投げ込まれるようになった。更に蛸殻町には東京穀物商品取引所があったため、先物取引などを行う相場師や株屋の崇敬も集めていた。

水天宮のお札は難解な梵語風で、鳥を象どるような文字図柄で、万治3年（1660年）に諸国で洪水が起きた時、有馬家に仕えた祝部牧志津摩が創作したと言われる。



4. 江戸水天宮の一般参拝化へ

①参拝日の開放

久留米有馬藩は江戸でも信仰者の多い水天宮への一般参拝の許可を求める伺書を幕府へ提出した。そして幕府からこうした事例は関与しないとの見解を得て、毎月5日に一般開放されることになった。

その人気ぶりに<水天宮金>という賽銭や奉納物、お札の販売物があり、その金額は年間2000両に上り、財政難であえぐ久留米藩にとって貴重な副収入であった。

②江戸水天宮の御神徳（ご利益）

<子授け・安産>

御子守帯である。この帯が水天宮の安産のお守りである。参拝時に鳴らす鈴から垂れ下がる「鈴の緒」をもらい受けた妊婦が、それを腹巻にしたところ安産だったという逸話にちなむ。

この独特の安産のお守りによって、江戸水天宮は江戸屈指の<流行神>となり、戌の日に特に多くの参拝客が訪れるようになった。皇室でも御子守帯が使用されたという。



<その他の御神徳（ご利益）>

●梅干しの種を誤飲した子供に水天宮の護符を飲ませたら一緒に出てきた。

●難病が治癒した。

●短刀で無理心中を迫られた女性、~~泣き~~泣き廻りを持っていったため、命を取り留めた。

といった話が流布していたようだ。

③総本宮：久留米水天宮の御神徳（ご利益）

1933年（昭和8年）に発行された『水天宮 御徳記』をみると、やはり水神を祀ったことに由来するのか、水難に係わる人が多いようである。

●5分程の魚骨が咽喉にささり困難であったが、御神徳で13日後にお守りを頂いた後、23時間余りの咳き込みと共に魚肉と一緒に出てきたというご神徳の体験談。

●川河畔に盾壇の淵という魔の淵があり、毎年水難死者がでていた。小丘に社殿を建立した後は御神徳により、水死者は出ず、溺れる者は救助され助かっている。

●未曾有の大火災の中、水天宮社殿建立時に火工小屋で火をくい止め防火のご神徳として、講員の34軒中33軒が延焼を防ぐことが出来た。

●出漁中誤って高価な網を紛失した。水天宮のお守りを持って探していたら海底から採り上げることができた。網の雛形を奉納した。

●難産で大手術をする予定だったが、手術に取りかかろうとする寸前、御神徳により無事に安産した。以上

<参考文献>

1. 久留米市史
2. 「c o c o m i オトナ空間」Yuchub
3. 久留米藩 林洋海 現代書館
4. フリー百科事典「ウィキペディア」水天宮/宗門改め/有間神社/参勤交代/流行神
5. 有馬記念館展示資料
6. 江戸のはやり神 宮田登 ちくま学芸文庫
7. 宗教の経済学 R/j/バロー&R.M マックリアリ 慶応義塾大学出版会
8. 水天宮 御神徳記 水天宮講社

次回10月4日ゼミ・テーマ

装飾古墳について:松石 賢治会員

以上